

景観に配慮した残置型枠工（日高北部森林管理署）

事業名 : 清見の沢治山工事
施工箇所 : 北海道沙流郡日高町 日高北部森林管理署50林班
工事概要 : コンクリート谷止工 L=31.0m H=7.0m V=459m³
側壁 L=10.4m V=89m³ 垂直壁 23.0m V=60m³
総型枠面積 666m² 残置型枠(丸太式)面積 233m²

【 全景 】



当該事業地は、道央と道東を結ぶ主要国道274号に面しており、特に景観への配慮が必要な箇所である。

このことから、治山施設を自然景観へ調和させるとともに、木材（間伐材）の利用拡大を図ることを目的として当該工事を施工した。

構造は、鋼製の支柱(間隔2.0m)に丸太(三面落とし)をボルトで固定・積み上げて型枠を形成し、この中にコンクリートを打設してダム本体と型枠を一体化したものである。

残置型枠の採用は、下流側のコンクリート露出部分のみとした。なお、使用した木材については、水質汚染にも配慮し防腐処理を施していない。

景観に配慮した埋設型床固工（上川中部森林管理署）

事業名 : 地域防災対策総合治山事業
施工箇所 : 北海道上川郡美瑛町白金 上川中部森林管理署
工事概要 : 埋設コンクリート床固工 L=51.0m H=4.5m V=656.1m³

当該事業地は、年間80万人に及ぶ観光客で賑わう白金温泉街の上部に位置する。十勝岳は過去に7回噴火しており、大正15年5月の噴火時に大泥流が発生し、144名もの尊い命を奪う大災害となった。大正15年の火山泥流が大規模となった原因は、流水による地表面削剥であった。

この削剥を防止するために床固工を主体に治山施設の配置を計画した。

この地域は大雪山国立公園内にあることから、治山施設を自然景観と調和させることを目的としてこの工法を採用したものである。

【 施工中の状況 】



【 完成時の状況 】



【 自然環境に配慮し完成した床固工 】



濁水防止に配慮した鋼製自在枠工（根釧東部森林管理署）

事業名 : 精神川(215林班) 治山工事
施工箇所 : 北海道目梨郡羅臼町麻布
工事概要 : 鋼製自在枠 9.038t

【 全景(下流側より) 】



当該事業地は、精神川河口から約2.5km上流の左岸部に位置しており、大規模な地すべり地帯の下部ブロックに当たる。

下流の沿岸部ではサケ、マス等漁業が盛んであるが、過去の大雨等により土砂が流出し被害をあたえたため、昭和49年以降、治山事業を実施してきた。

当該治山施設は、降雨時等に発生する濁水を濾過する浄水機能により、下流域の環境保全に資する目的で設置した。

ダムの前면에鋼製自在枠を組み立て(幅14m、高さ6m)、アンカーボルトで固定し、その中に濾過材(黒曜石パールライト粒子をネットに詰めたもの)を積み込んでいる。

設置後、降雨時等における汚濁の発生は特に見られない状況である。

【 濾過材の据付作業の状況 】



景観に配慮した残置型枠工（檜山森林管理署）

事業名 : 奥尻島(整備工場裏)治山工事

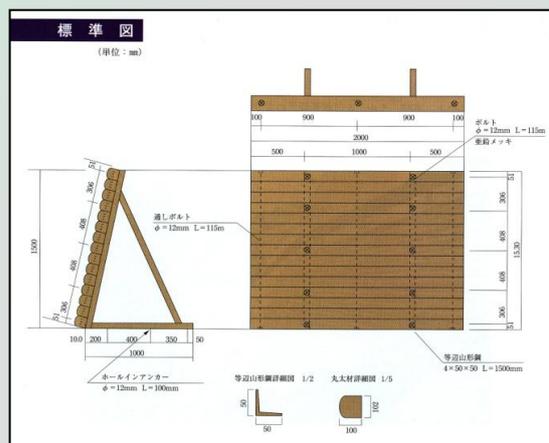
施工箇所 : 北海道奥尻郡奥尻町奥尻

工事概要 : 木製型枠工 45.49m³

使用樹種 カラマツ

落石防護柵工(緩衝材) 50.88m³

【 木製残置型枠による土留工 】



当該事業地は、奥尻町市街地(民家裏)であり、景観への配慮が必要な箇所である。このことから、治山施設を自然景観へ調和させるとともに、奥尻島内で生産される小径木材(間伐材)の利用拡大を図ることを目的として当該工事を施工した。

なお、木製型枠工は現地で山形鋼と通しボルトで木材パネルを製作し、コンクリートを打設した。

また、落石防護柵の背面に衝撃緩和材として木材(間伐材)を束状(5~10本)に結束して設置した。

【 木製残置型枠による落石防護柵(基礎部) 】



衝撃緩和材として間伐材を利用

【 木製パネル設置状況 】

